

掴め君の未来を！

慶連中学校・高等学校 進路部 令和5年4月27日発行

3年生は、受験の年を迎え、進路意識も高まる時期ですね。この時期に受験生になれているかが重要ですが、焦りを感じている人もいるのではないのでしょうか。5月の連休を活用し、これまでの学習の遅れを取り戻しましょう。また、受験生としての学習スタイルができていないか、受験に必要な段取りやスケジュールを把握できているか、保護者と進路について話しているかについて、確認してください。もしできていないと思うならば、さっそく実行しましょう。1・2年生も「気持ちを新たに頑張ろう」と思っている人も多いと思います。5月は、今年度初の定期テストである中間試験があります。早めに準備を始め、成績アップに努めましょう。ボランティアや体験活動など、外部の活動に積極的に参加することも大切です。また、英検などの検定試験にも挑戦していきましょう。

●大学入試トピックス

① 2024年度一般選抜入試(現3年生が受験する入試)のスケジュール (ベネッセハイスクールオンラインの記事をもとに作成) ※未発表の日程については例年のものを記載しています。変更の可能性がありますので、常に最新の情報を確認してください。

☆国公立大学		☆私立大学	
6月～	選抜要項発表(～7/31)	6月～	募集要項が出始める
9月上旬	共通テスト受験案内配布	9月上旬	共通テスト受験案内配布【共通テスト利用方式】
10月上旬	共通テスト出願	10月上旬	共通テスト出願【共通テスト利用方式】
12月までに	募集要項発表	12月～	出願開始(1月前半が多い)
1/13・14	共通テスト(本試験)	1/13・14	共通テスト(本試験)【共通テスト利用方式】
1/20・21	共通テスト(追試験)	1月末～	入学試験【一般方式・前期】(2月前半が多い)
1/22～1/31	個別試験出願		〈合否選考〉【共通テスト利用方式・前期】
2/25～	前期試験		→合格発表(2月後半が多い)
3月上旬	前期試験合格発表	前期終了後	出願開始【一般方式と共通テスト方式・後期】
3/8～	中期試験	2月後半～	入学試験【一般方式・後期】
3/12～	後期試験		〈合否選考〉【共通テスト利用方式・後期】
3/20～	中期、後期試験合格発表		→合格発表
3/28～	追加合格者・欠員補充募集		(私立大学のスケジュールは、大学・学部により大きく異なります。)



② 2023年度入試(3月に卒業した先輩が受験した入試)の動向分析 (旺文社教育情報センターのHPの記事より抜粋)
【国公立大】 志願者数は全体で約42万3千人と、前年に比べ1%減。共通テスト(以下、共テ)の平均点アップにもかかわらず、大学受験生数の減少(約2%減。旺文社推定)に見合った結果となった。「初志貫徹」の傾向が見られ、一橋大・京大や、横浜国立大・大阪公立大など難関～準難関校の志願者が増える一方で、コロナ禍に伴う家計不安などによる安全志向も根強く、前年の反動が顕著に見られた。後期は国立大1%減、公立大4%減。募集枠縮小もあるが、最後まで粘る姿勢は前年に比べやや弱まったといえる。
【私立大】 2月20日現在の、主な2月入試の志願状況(集計数:195大学・約254万6千人)を見ると、志願者数は前年比2%減。前年の合格者増による易化を見越してチャレンジ志向が見られる一方、コロナ禍による家計不安、学校推薦型・総合型選抜の志願者増・合格者増などから、合格確保校の併願を絞り込む「逆T字型」の出願傾向が見られた。各大学の独自入試が3%減、独自・共テ併用方式が4%減。一方で、共テ利用方式は1%増。共テの後に出願を締め切る方式では、平均点アップが追い風になった模様だ。

③ 新課程入試(現1年生・現2年生が受験する入試)について (河合塾大学入学入試情報サイト「Kei-Net」の記事から抜粋)
 新課程入試まで2年を切り、国公立大学では約8割の大学が、2025年度入試科目等の公表を進めている(令和5年3月15日現在)。
【共通テスト『情報』】 前期日程で『情報』を必須で課す区分は、国立大97%となった。一方の公立大では『情報』を課さない区分が1割を超え、新教科の利用に慎重な動きが見られる。必須の割合は4割強にとどまるが、他教科との選択を合わせると8割を超える区分で『情報』の利用が可能だ。なお、『情報』を課す大学のなかには、教科増の影響を最小限にとどめるケースもみられる。必須で課すものの得点化しない(北海道大、徳島大)、他教科と比べて配点の比重を低く設定する(筑波大、名古屋大)などがその例である。
【共テの教科・科目数】 国立大では、『情報』を含む6教科8科目を課す区分は83%となっており、現行で5教科7科目を課す大学のほとんどが『情報』を加えた6教科8科目に移行すると考えてよいだろう。一方の公立大は、6教科8科目を課すのは全体の2割にとどまる。とはいえ、公立大でも医学科や難関大の多くは、国立大に準じて6教科8科目を課すため、国公立大を目指す受験生にはまずは『情報』を含む6教科8科目を受験することを念頭に組みませたい。
【2次数学】 国公立大学の個別試験(2次試験)で数学の出題範囲について、文系学部は「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C」、理系学部は「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C」を課するのが一般的のようだ。ただ「数学C」が増えたとはいえ、個別試験において現行入試の出題範囲から変更しない大学が多く、大きな負担増にはならない見込みだ。

●先輩の合格体験記 昨年度、大学に合格した先輩の体験記を一部抜粋して掲載しています

岡山大学医学部医学科 (中高一貫コース卒業)	九州大学文学部 (アドバンスコース卒業)	北九州市立大学地域創成学群 (グローバルコース卒業)
【先輩へのメッセージ】 受験はとにかく基礎・基本が大切です。下手に難しい問題に手を出すべきではありません。国語や社会、英語では単語など暗記すべきことを暗記すること、数学や理科では典型問題を知り、定石を覚えることが大切です。また、日々の課題や小テストは基礎の徹底につながるため、とても重要です。課題・小テスト・定期試験だけはきちんとやると心に決め、良い成績が残せるよう努力しました。高1から上の3つだけでもきちんとやれば、高3になった時に楽だと思います。頑張ってください。	【先輩へのメッセージ】 受験生の1年間はとても長くても苦しいものでしたが、終わってみると、とても充実して楽しい1年間でもあったと感じます。高3の1年間頑張ればこの大学でもいけると思えます。人生で一番勉強したなと思えるように、後悔のないように過ごしてほしいです。	【先輩へのメッセージ】 最後まで何が起るか分からないから、絶対に諦めないことが大切です！目指す大学が決まっても勉強を続けていけば選択肢が広がって、目標が見えてくるはずですよ！目標が決まったら全力でがんばろう！
【勉強のやり方について(数学)】 『青チャート』がおすすめです。青チャの例題はどれも典型問題なので、全て解けるようにすると思います。難しい問題も、もともとできれば青チャにのっているような典型的な問題と同じ考え方・発想だったりします。難しい問題が解きたい人は、『プラチカ』がおすすめです。	【勉強のやり方について(国語)】 古文単語や漢文の句形など基本的なことは、空いた時間に毎日確認していました。共テは授業で解く機会が多くあり、家では特に対策はしていないが、どうすれば正解できたかよく考えました。二次は赤本を解いて、先生に添削をお願いして、もう一度解いていました。	【勉強のやり方について(英語)】 単語帳一冊覚える！単語を見てすぐに意味が言えるようにする。知らない単語が出たら、その日のうちに覚える！長文は、始めは自分のペースで正確に読むことを心がけ、慣れてきたら読むスピードを上げて、頭の中でストーリーを浮かべながら、時間を決めて取り組む。文章中のキーワードに印をつけたり、回答の根拠になるところに線を引いたりするなどの読み方の工夫も大事！

●確認しよう！入試区分

大学受験には様々な入試区分があります。入試区分の特性をしっかりと理解し、自らの受験方法を考えましょう。

総合型選抜(旧AO入試)	学校推薦型選抜(旧推薦入試)	一般選抜
・エントリーシートなどの受験生からの提出書類のほか、面接や論文、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを、時間をかけて総合的に評価する。また、国公立大学の中には、共テを課す大学もある。 ・校長の推薦を必要としない。原則「専願」制。 ・出願の目安:9月～	・出願に校長による推薦が必要。書類審査(調査書・推薦書・志望理由書など)+小論文+面接が中心。プレゼンテーション、口頭試問、各教科目のテスト、資格・検定試験の成績、共テなど学力を確認する評価方法が活用される。公募制・指定校・姉妹校推薦などがある。 ・公募制推薦:大学側の出願基準を満たし、校長から推薦があれば、どの高校の生徒でも出願することができる。原則として「専願」制であるが、一部の私立大学で「併願」を認めている場合もある。 ・指定校推薦:大学から指定を受けた高校の生徒しか出願することができない。「専願」制。 ・出願の目安:11月～	・国公立大学は、1月13日・14日に実施される共通テストと各大学が実施する個別試験(2次試験)とで、総合判定される。前期・中期・後期の最大3校の受験可能。 ・私立大学は1月末～3月に大学ごとに入学試験が実施される。受験日が被らなければ何校でも受験可能。 ・出願の目安:左記スケジュールを参照

●小論文講座を実施しました

4月18日(火)に、株式会社 Gakken の小論文添削室講師である波多野洋司先生をお招きし、「小論文講座」を実施しました。受験における小論文の重要性は年々高まっています。大学の過去問を利用して、一度試しに小論文を書いてみることをおすすめします。以下、小論文講座の内容の一部です。

- 表現・表記について:手書き文字の鉄則は「濃く、大きく、丁寧に」。
- 答案作成時に注意すべき点:小論文の評価を左右するポイントは、意見が明確に述べられているか、意見の理由付けや根拠が書かれているか、である。
- 要約の重要性:読解力や要約力は実社会に出た後も重要。逆接の接続詞(「だが」「しかし」など)や言い換え表現(「要するに」「つまり」など)の後に要約された内容が表現されることが多い。
- 社会問題に対する関心度の重要性:小論文・面接でも受験生の社会問題に対する関心度、知識を問う問題が頻出されている。



5月の進学スケジュール

8日(月) 中間試験日割発表

15日(月)～18日(木) 中間試験

23日(火) 大学合同説明会 in keishin (Ⅱ・Ⅲ)

26日(金)・27日(土) ベネッセ共通テスト模試 (Ⅲ)

27日(土) 実用英語技能検定(一次)

日時未定 志望理由書・実践小論文模試リライト (Ⅲ希)